特別支援学校小学部・中学部・高等部、特別支援学級等 学習指導案書式例

（平成30年、31年告示）

……科（分野・科目名等）学習指導案【…………課程】

日時　令和…年…月…日(…)

学校の教育課程等に応じて、教科名や科目名、教科等によっては分野等を記載する。

複数の教育課程がある学校の場合は、対象児童・生徒の教育課程を示すとよい。

…校時…:…～…:…

学校名　………立…………学校

使用するフォントとサイズは、

タイトル、項目 MSゴシック体10.5ポイント

本文 MS明朝体10.5ポイントを使用する。

数字については、１桁は全角、２桁以上は半角で表示する。

対象　第…学年…組 …名

会場　…階 …………教室

授業者　…職 名… ……氏 名……

１ 単元(題材)名 ………………………(科目、使用する教科書、副教材等の名称、出版社名等)

|  |
| --- |
| ・　児童・生徒にとって分かりやすい単元(題材)名を設定するとよい。 |

２ 単元(題材)の目標

|  |
| --- |
| ・　小学校及び中学校又は特別支援学校学習指導要領に示された目標や内容に基づき、単元(題材)の学習を通じて育成を目指す資質・能力を示す。  ・　「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱を踏まえて、それぞれの資質・能力ごとに分けて記述したり、育成する資質・能力を総括的に記述したりする。 |

３ 単元(題材)の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ア　知識・技能 | イ　思考・判断・表現 | ウ　主体的に学習に取り組む態度 |
| ①　……している。  ②　……できる。  ③　……身に付けている。 | ①　……している。  ②　……できる。  ③　……している。 | ①　…しようとしている。  ②　……している。  ＊ 文末については、例を示す。 |

|  |
| --- |
| ・　小学校及び中学校又は特別支援学校学習指導要領に示す各教科等の目標や内容に照らして学習状況を評価する(目標に準拠した評価)。  ・　児童・生徒が育成を目指す資質・能力を「おおむね満足できる」状況(Ｂ)として判断される状態を表す。  ・　どのような資質・能力をどこまで育成するのか、ねらいを明確にして、具体的な評価規準を設定する。  ・　「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点について、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、児童・生徒の実態を考慮して設定した単元(題材)の評価規準を示す。  ・　「内容のまとまりごとの評価規準」や単元(題材)の評価規準の作成に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(文部科学省国立教育政策研究所 令和２年３月)や「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」(教育庁指導部義務教育指導課 令和２年９月)等を参考にする。  ・　学習集団内の児童・生徒の実態に応じて、複数の評価規準を設定することもある。 |

４ 指導観

(1)　単元(題材)観

|  |
| --- |
| ・　単元(題材)の学習指導要領における位置付けについて、学習指導要領の該当する箇所を引用して示す。  ・　必要に応じて、本単元(題材)における重点を置く指導事項や指導の系統性、カリキュラム・マネジメントの視点に基づく教科等間の関連(教科等横断的な視点)等を記述する。 |

(2)　児童・生徒観

|  |
| --- |
| ・　本単元(題材)の学習内容に関する児童・生徒の既習事項の定着状況や、前単元(題材)までの学習における実態等について記述する。  ・　本単元(題材)や本時に関連する学習における児童・生徒の実態や課題とそれに対応するための指導上の配慮や工夫、学習を通して目指す児童・生徒の姿等を記述する。  ・　障害による学習上及び生活上の困難さに着目し、自立活動の視点から記述するとよい。 |

(3)　教材観

|  |
| --- |
| ・　授業で取り扱う教材・教具、資料、地域の人材、学習環境等について、どのように活用するのかを具体的に記述する。  ・　単元(題材)観や児童・生徒観と関連させ、使用する教材等の活用の仕方等についての考えを記述する。  ・　必要に応じて、安全指導について記述する。 |

５ 年間指導計画における位置付け

|  |
| --- |
| ・　本単元(題材)の学習内容と関連する学習内容の単元等が分かるように、表などを活用して年間指導計画を簡潔に記述する。  ・　学習内容の系統性を示す場合は、当該学年以外の年間指導計画との関連を記述することも考えられる。 |

６ 単元(題材)の指導計画と評価計画(全○時間)

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 目標 | ○ 学習内容 ・ 学習活動 | 評価規準(評価方法) | | |
| ア | イ | ウ |
| 第１次 | 第１時  第２時 | ……………………………………………。 | ○　…………………………………………。  ・　……………………………。 | ①(行動観察) |  |  |
| 第■次 | 第◇時  第□時  (本時) | ……………………………………………………………。 | ○　…………………………。  ・　………………………。  ・　……………………………。 | ③(ワークシート分析) | ③(行動観察) |  |
| 第◎次 | 第△時  第○時 | …………………………………。 | ○　………………………。  ・　…………………………。 |  |  | ①(発言分析) |

|  |
| --- |
| ・　内容や時間のまとまりごとの目標は、[１　単元(題材)の目標]で示した育成を目指す資質・能力について、内容や時間のまとまりごとに細分化し、具体的に示す。  ・　内容や時間のまとまりを見通して構成を考え、主体的・対話的で深い学びとなるように学習内容及び学習活動を設定する。  ・　[３　単元(題材)の評価規準]で設定した評価規準の各項目については、単元(題材)の指導計画を踏まえ、適切な時期や場面で評価を行う。複数の単元(題材)で評価する項目等については、欄外等にその旨を記載することなどが考えられる。  ・　観点別の学習状況の評価は、毎時間、全観点について評価をするのではなく、それぞれの実現状況を把握できる段階で評価を行うなど、評価する場面を精選し、多様な評価方法を適切に取り入れ、設定する。また、児童・生徒の学習状況を把握し指導に生かす評価と、全員の学習状況を記録に残す評価を区別して示すことも考えられる。  ・　必要に応じて、「時」の左に「第…次」を記入する欄を挿入してもよい。 |

７ 配置図(例)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 黒板 | Ａ  Ｃ  Ｂ  Ｄ  Ｅ  Ｔ１  Ｔ２  Ｔ３  例：まぶしさを回避するため、廊下側の座席にする。 | 出入口 |
|  |
|  |
| 出入口 |

|  |
| --- |
| ・　児童・生徒の座席位置や教員の配置について、吹き出し等を活用してその意図を明記するとよい。  ・　授業展開に応じて、座席位置等を変更する場合は、変更後の配置も示すとよい。 |

８ 指導に当たって

|  |
| --- |
| ・　指導内容や方法、学習形態等について、工夫・改善したこと及びそれについての考え等を記述する。  ・　授業力の６要素(「使命感、熱意、感性」、「児童・生徒理解」、「統率力」、「指導技術(授業展開)」、「教材解釈、教材開発」、「『指導と評価の計画』の作成・改善」)や「主体的・対話的で深い学び」等を視点として記述するとよい。  ・　自立活動の指導内容と関連した配慮事項等を記述するとよい。 |

９ 本時(全○時間中の第□時)

(1)　本時の目標

…………………………………………………………………………………………………………………………………する。

|  |
| --- |
| ・　本時において育成を目指す資質・能力を具体的に記述する。  ・　[６ 単元(題材)の指導計画と評価計画]で示した、当該時間の目標と一致させる。 |

(2)　本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 ・学習活動 | 指導上の留意点 配慮事項 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  …分 | ＊　児童・生徒と既習事項等を確認し、本時の目標を把握させるようにする。  ＊　児童・生徒が学習の進め方を知り、学習の見通しをもてるようにする。 | ＊　文字や画像、具体物等を用いて本時の目標を明示し、児童・生徒が理解できるようにする。  ＊　児童・生徒が課題意識をもてるよう、内容や提示方法等を工夫する。 |  |
| 展開  …分 | ＊　学習活動の流れ、学習する内容が明確になるように記述する。  ＊　授業者の主な発問や予想される児童・生徒の反応等を端的に記述するとよい。  <○　学習内容の記述例>  ○　△△の特徴に気付く。  ○　▲▲の特徴を理解する。 | ＊　本時の目標を達成するための具体的な指導内容、児童・生徒が課題を解決するための指導の工夫等について具体的に記述する。  ＊　障害に応じた留意点や配慮事項を記述する。  ＊　必要に応じて、一人１台学習者用端末等のＩＣＴの活用について記述するとよい。 | ＊　[６ 単元(題材)の指導計画と評価計画]で示した、本時の評価規準を示す。  ＊ 評価する場面が分かるように、学習内容、学習活動の記述と文頭の高さを合わせるとよい。 |
|  | <・　学習活動の記述例>  ・　□□について、選択する。  〔予想される児童・生徒の反応〕  ‣ ○○だと思う。  ‣ △△だと思う。  ・　◆◆を他の児童・生徒と協力して行う。  ・　◎◎について発表する。 | ＊　学習内容や児童・生徒の実態に応じた、安全、衛生、健康等に関する配慮や個別の対応については、別紙「単元(題材)に関する個々の…」又はこの欄の右に児童・生徒別に欄を作成し記述するとよい。  ＊　複数の教員が指導に関わる授業では、各教員の役割を明確に記述する。  <記述例>  ・　イメージがもてるように写真を提示し、選択させるようにする。  ・　○○が十分でない児童・生徒に対し、個別に□□について机間指導する。  ・　発表したことを、学習のねらいに即して価値付ける。  ・　上肢の動きを支援するための補助具の適切な使い方について指導する。 | ＊　評価をする際の具体的なポイントや努力を要する状況の児童・生徒への手立てを記述してもよい。  <記述例>  ア-③　……身に付けている。(ワークシート分析)  イ-③　……している。(行動観察) |
| まとめ  …分 | ＊　本時の学習について振り返る時間を設定する。  ＊　次時の学習の見通しをもたせられるようにする。 | ＊　振り返りを通して、本時の目標に対しての実現状況等を確認する。  ＊　次時の学習の見通しをもたせるための言葉掛け等を行う。  ＊　健康状態を確認する。 |  |

(3)　板書計画

|  |
| --- |
| ・　１単位時間の学習の流れが分かるように、板書する内容を整理して具体的に記述する(単元(題材)名、目標、問題・課題、提示する資料、予想される児童・生徒の発言、まとめ等)。  ・　ＩＣＴを用いた提示等については、その内容や方法等を具体的に示す。  ・　障害による困難さに応じて工夫した提示方法について、具体的に記述する。 |

(4)　授業観察の視点

|  |
| --- |
| ・ 授業改善に向けて、重点的に観察してほしい点や協議してほしい点を具体的に記述する。  ・ [８ 指導に当たって]の内容や本時の目標、展開、時間配分、児童・生徒の学習活動の内容、教材・教具、発問・指示、評価場面や評価方法等を着眼点として具体的に記述するとよい。  〈記述例〉  ・ 児童・生徒一人一人の目標の設定は適切であったか。  ・ ○○を使用したことにより、児童・生徒は目的に向かって活動することができたか。  ・ 個々の障害の状態等に応じた指導ができたか。 |

別紙「単元(題材)に関する個々の児童・生徒の実態と本時の目標」書式例

|  |
| --- |
| ＊ 児童・生徒の障害の状態等の個人情報が含まれるため、児童・生徒の氏名は書かず、「Ａ、Ｂ、Ｃ…」と表記し、取扱いには十分注意する。  ＊ 授業研究当日に、通し番号を記載して別紙で配布し、協議終了後に回収する。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童・生徒 | 児童・生徒の実態 | 本時の目標 | 指導の手立て・留意点 | 評価規準(評価方法) |
| Ａ | ＊　児童・生徒の実態は、個別指導計画を踏まえて、単元(題材)及び本時の目標設定に関連する実態や課題、障害による学習上の困難さに着目して記述する。  ＊　学習上、生活上の困難さに着目した自立活動の視点からの内容を記述する。 | ＊　複数の展開がある場合はその展開に応じた目標を設定してもよい。 | ＊　個別に必要な指導の手立てを記入する。また、本時の展開で、個別に配慮や対応を必要とする場合は、この欄に記入する。 | ＊　課題に対する実際の活動の内容から具体的に記述する。  ＊　評価方法の具体例  ・　ノート、ワークシート等の記述の分析  ・　授業中の発言、教師の発問に対する受け答え(意味付けされた発声、行動等)、話合い活動等の観察 |
| Ｂ | <記述例>  ・　□□の場面で、次の場面を期待する様子が見られる。  ・　◎◎を考える際は、◇◇◇などの手立てが必要である。  ・　○○の状況で△△についての困難さが見られる。 |  |  | ・　課題に対する実際の活動の内容  <記述例>  ・　○○の場面で質問に応じた写真カードを指差しで選んでいる。(行動観察) |
| Ｅ |  |  |  |  |